

1. 日時 : 2015年5月11日(月)16:00-17:30
2. 出席者数 : 179名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 会社が発表した2015年度の通期見通しでは、在庫影響除きの経常利益について、前年度実績に対し348億円の増益となっているが、主な要因は何か？

A. 資源価格の下落により、上流事業においては減益となるが、中下流事業における増益により、全体の経常利益についても増益を見込んでいる。

なお、中下流事業の増益は、エネルギー事業における石油精製マージンの若干の改善や、原油価格下落による自家使用燃料代の良化、サプライチェーンの改善によるコスト削減、加えて、金属事業における電材加工製品の増販、製錬マージンの改善、円安効果等が主な要因である。

Q. カセロネス銅鉱山プロジェクトについては、第三四半期決算の発表時に、フル操業の時期が2015年2月から半年程度遅れるとの見通しが示されたが、その後の進捗について教えていただきたい。

A. 現在、銅精鉱の生産工程で生じる廃さいの堆積場の整備などに時間を要しており、グループ総力を挙げて取り組んでいる。

3月末にチリで豪雨があり、その影響で、廃さい堆積場の整備についても若干の遅れを見せているが、第三四半期決算発表時のスケジュール通り（半年程度）でフル操業に到達できるよう鋭意努力している。

Q. 原油価格や銅価等の資源価格が低水準にあるが、設備投資の方針について変更はあるか？

A. 第2次中期経営計画期間中の設備投資については、カセロネス銅鉱山の開発に一部遅延はあるものの、パプアニューギニアにおけるLNGプロジェクトや韓国パラキシレンなどの大型プロジェクトは、2014年度でほぼ完了した。

現在、次年度からスタートする第3次中期経営計画を策定中であるが、当該期間中の設備投資については、成長のため投資は継続していくものの、総額は抑制していく方向である。

Q. 第2次中期経営計画で提示している株主還元方針から変更はあるか？

A. 第2次中期経営計画で示した株主還元方針に変更はない。なお、現時点では、2015年度は1株あたり年間16円の配当を予定している。

以上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。